

第3A (小) 分科会 —教育環境整備に関する課題—

提案主題 大規模校における連携型小中一貫教育の取り組み
～小中連携に教頭としてどうかかわっていったか～

司会者	大分市立大在西小学校	島 邦彦
提言者	大分市立大在小学校	佐藤重康
助言者	日田教育事務所次長兼指導課長	清松今朝見
記録者	大分市立大在小学校	池邊 薫

1 協議の柱

・大規模校における小中連携をすすめるための教頭としての役割はどうあるべきか。

2 協議の実際

(1) 質疑応答

質問：小中一貫教育の取組をすすめていくうえでの教頭としての悩みについて。

回答：教務と連絡をとりながら、話し合い等の日程を合わせていくことが難しい。

また、大規模校で職員数が多いため、自校の中での連絡徹底が図りにくい。

質問：研究内容で一番効果があったことについて。

回答：小中での共通点や相違点を確認することができた。小中学校間で、教科の中でのつながりを深めていくことが大切である。

また、授業規律・家庭学習のきまり等が統一されたことは成果と言える。

(2) グループ協議の報告

- ・行事・会議等の連絡調整は大規模校であるほど教頭として苦勞するが、大切な役割である。
- ・小学校は学級が中心，中学校は学年が中心というように，大きな違いがあるため，職員の考え方や意識にもギャップがある。その職員のギャップをうめ，職員の意識改革を進めていくことが教頭の役割ではないか。
- ・各校の考え方，伝統などを考慮しながら一つのものをつくり上げていくことは難しい。そこを乗り越えるために，小中連携の会議でしっかり話し合い，その内容を全体のものとしていくことが必要である。それをリードしていくのが，教頭の役割ではないか。

3 指導助言

- ・小中連携は目的ではなく方法である。小中連携の意義をどう浸透させていくかが教頭の役割である。
- ・小中連携は，単純な異種校の連携ではなく，地域の子どもを一緒に育てていくのだということを理解し合うことが大切である。
- ・小中連携では，互いの校種のよさを見出し，異なる文化を理解し合うことが必要である。
- ・小中連携における5つの提案
①小中連携のための研究と校内研究とを統一する。（時間の確保ができる。）②小小連携の視点を取り入れる。③教育目標やカリキュラムを同じものにする。（身につけさせたい共通の力がはっきりする。）④部会の体制を整える。（小中連携部会を学校の組織の中に位置づける。）⑤小中の教育課程を合体させる。（9年間続いている教育課程があると分かりやすい。）